

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：32645

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23790581

研究課題名(和文) 初期臨床研修医に対するSNAPPSモデルを用いた外来診療能力の向上の検討

研究課題名(英文) Study to improve the resident's ability of outpatient care by using SNAPPS

研究代表者

関 正康 (Seki, Masayasu)

東京医科大学・医学部・兼任助教

研究者番号：00532227

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、研修医に症例提示を指導する際にSNAPPSあるいはOne-minute preceptorを用いて、鑑別診断を挙げる能力や能動的な学習といったアウトカムに違いがあるかを明らかにすることにある。症例提示の結果、2つの指導法の間で「鑑別診断」「学習課題」の個数に差はなかった。SNAPPSでは「疑問点不明点」をより多く促し、「学習課題を挙げやすかった」に関して評価が高く、学習をより促せる可能性が考えられた。

研究成果の概要(英文)：The objective of this study was to ascertain the differences about content of case presentation and evaluation from learner, which is the ability of thinking "differential diagnoses" and active learning, between SNAPPS or One-minute preceptor when these are used to teach Japanese residents about case presentation. In the result of this study, there was no difference in the number of words related to "differential diagnoses" "learning issues" that were elicited from residents presented and discussed the case by either SNAPPS or One-minute preceptor. Participants in the SNAPPS group used a significantly greater number of words related to "question and uncertainties" compared with those in the One-minute preceptor group, and the evaluations by the self-evaluation sheets is high in terms of "It was easy to bring up learning issues". So teaching by SNAPPS might be able to encourage learning more actively.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：医学教育 研修医 指導方法 SNAPPS

1. 研究開始当初の背景

インターン制度が廃止されて以降の臨床研修制度では、研修医が、将来標榜する専門領域以外の診療にあたる機会は比較的小なかった。指導医には、各専門領域の経験や診療能力はあるものの、それらをもとに研修医を指導する際の指導法に関しては、標準的な理論やそれを習得する機会は乏しかった。

新医師臨床研修制度が導入され、研修医の指導にあたる上級医にも、より多くの研修医を的確に指導することが求められるようになった。臨床研修医の診療への指導体制は多様化がさらに求められる一方で、前述のように基盤となる教育能力を指導医が習得する機会は十分ではない。現在でも、指導医の意見を鵜呑みにして疑問点を表出しないことや、背中を追いかけ模倣する、という古典的な学習が多く見られる。診療の現場で行う指導法が近年開発され、広まってきた。しかし、その効果が日本で検証されたものは少ない。

2. 研究の目的

現在の臨床研修で求められている指導法は、研修医に疑問点や困難さを積極的に表出させるもの、能動的な学習を促進するものである。臨床研修医が診療をし、その経過を指導医に報告や相談する際、SNAPPS法あるいはOne-minute preceptor法を指導医が用いることで、

研修医の能力、特に鑑別診断や疑問点を挙げる能力、

能動的学習能力への効果を比較検証することが目的である。

3. 研究の方法

(1) 研究に用いた SNAPPS法と One-minute preceptor法

SNAPPS法は、Summarize (症例の要約)、Narrow the differential (絞った鑑別診断の列挙)、Analyze the differential (挙げた鑑別診断の分析)、Probe the preceptor (疑問点や不明点を指導医に提示)、Plan management (診療の計画)、Select issues (学習課題の選定) の6段階に分かれた指導法である。事実の報告をまとめることや思考や推論を表出することにより、学習を促進し、かつ短時間での症例提示を促す技法である。また、学習者が積極的に疑問点不明点を表出することを促すことを狙いとしている。

One-minute preceptor法は、Get a commitment (自らの意見の促進)、Probe for supporting evidence (意見の根拠の確認)、Teach general rules (一般的な知識の伝授)、Reinforce what was right (できたことへの支持)、Correct mistakes (誤りの是正) の5段階に分かれた指導法である。後に、Identify next learning steps (学習課題の設定) が加わり6段階で用いられている。問題点の解決に使う知識の組み合わせ・解決手順を明らかにすること、および知識や手順の

不足領域に介入することを目的としている。

(2) 対象

東京慈恵会医科大学附属第三病院と東京医科大学病院に勤務する初期臨床研修医(研修医)を研究対象の候補者とし、研究への協力を依頼した。候補者は医師国家試験に合格し研修医として勤務をしており、二つの大学病院は共に厚生労働省より認可された臨床研修指定病院である。

(3) 研究方法

それぞれの病院に勤務する研修医で、研究に同意の得られた者をランダムに2群に分けた。同一の紙面に記載された模擬症例を用いた症例提示とその内容に関する討議を行い、一方の群はSNAPPSで、他方はOne-minute preceptorで行った。その指導の際に交わされた会話の内容と研修医の自己評価を2群間で比較検討した。指導は研究代表者が行った。

(4) 使用した模擬症例の要約

70歳男性が腰背部痛を訴えて来院した。受診前日18時頃より何となく腰のあたりが重かった。我慢できる程度であったので様子を見ていた。夕食は通常通り食べて就寝したが、朝5時位に腰の痛みで目が覚めた。当初は痛みで動けなかったが、朝7時位には多少改善した。既往歴は高血圧症、高脂血症を内服加療していた。意識は清明、血圧160/90mmHg、脈拍90回/分、呼吸数18回/分、体温36.5度。痛みで呼吸は浅めだが咳や痰はでなかった。腰背部の正中やや左背部に自発痛と叩打痛があった。

(5) 解析方法

会話の内容は録音し、その内容を逐語録に起こして「鑑別診断」「疑問点・不明点」「診療計画」「学習課題」の項目に該当する語句を抽出し、それぞれの個数を測定した。

自己評価は、「鑑別疾患を挙げやすかった」「疑問点・不明点を挙げやすかった」「診療計画を挙げやすかった」「学習課題を挙げやすかった」「効率よく症例提示をしやすかった」「手順が示され症例提示をしやすかった」「症例提示が充実していた」の7項目について、「全くそう思わない」「あまり思わない」「変わらない」「まあそう思う」「強くそう思う」の5段階で評価とした。

なお本研究は、東京慈恵会医科大学附属第三病院及び東京医科大学医学倫理委員会の研究倫理審査委員会の審査を受け承認され、行った。

4. 研究成果

(1) 研究結果

研究対象の候補者116名中71名(東京慈恵会医科大学附属第三病院:35名、東京医科大学病院:36名)が調査への協力を同意し調査に参加し、参加者全員からデータが得られ

た。

会話の内容に関して、SNAPPS で指導を行った群と One-minute preceptor で行った群を比較した結果が以下の図 1 である。これは「鑑別診断」「疑問点不明点」「診療計画」「学習課題」に該当する語句の個数を平均値で比較したものである。指導の会話の中で交わされた「鑑別診断」「診療計画」の個数は、2つの群に差はなく、「学習課題」の個数は SNAPPS の方がいくらか多い傾向だった。「疑問点不明点」の個数は SNAPPS の方が One-minute preceptor と比べて有意に多かった。

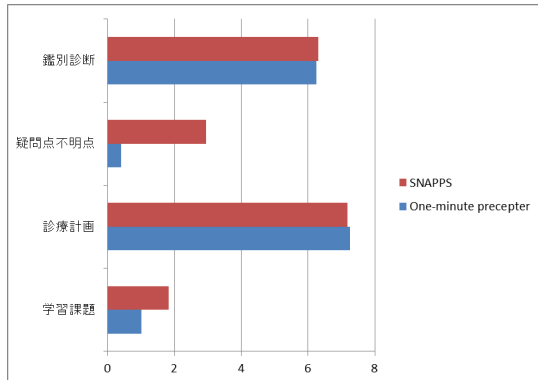


図 1 . 会話内容に関する個数の比較

研修医の自己評価に関しては、以下の図 2 のような結果だった。自己評価項目ごとに、評価をつけた人数の割合の比較を図に表した。「鑑別診断を挙げやすかった」については、両群で人数の割合に差はなかった。「疑問点不明点を挙げやすかった」については、SNAPPS 群で強い肯定を示す割合が多かったが、否定的な評価をした割合は差がなかった。「診療計画を挙げやすかった」は、SNAPPS 群で強い肯定を示した人数が多い一方で、強い否定を示した割合も多かった。One-minute preceptor 群は、肯定的な評価の割合が多かった。「効率よく提示しやすかった」については、SNAPPS 群は肯定的評価の割合が多く、一方で One-minute preceptor 群は否定的評価の割合が多かった。「提示をしやすかった」と「充実していた」については、SNAPPS 群は肯定的評価の割合が多かった。

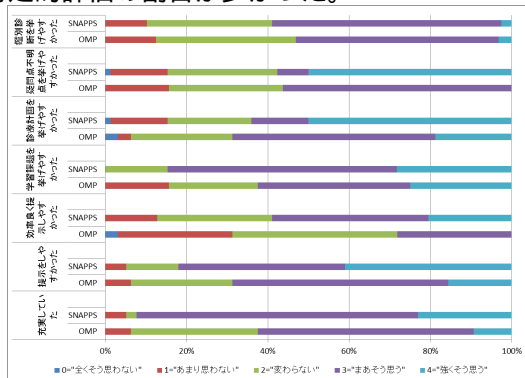


図 2 . 自己評価の人数の割合の比較

(2) 研究の考察

研究方法について

研究当初は同一の研修医に対して SNAPPS と One-minute preceptor の両方を交互に行い、その効果を比較する予定だったが、研究対象者が病院で勤務する初期臨床研修医であるため、多忙な日常診療の中で今回の研究のため繰り返し時間を確保することは困難だったため、SNAPPS あるいは One-minute preceptor のどちらか一方にわりつけ、比較する方法とした。

会話内容に関する考察

SNAPPS は学習者に「疑問点不明点」を発言させる構造をもっているため、OMP の指導より多くの「疑問点不明点」引き出せたと推測される。我々日本人には、わからないことをあまり口に出したがない風潮がしばしばみられるが、SNAPPS のような「疑問点不明点」の意思表示の重要性を伝えることで、十分に引き出せることが推測された。そのことにより、「学習課題」をより引き出す結果につながったことも考えられた。一方で、One-minute preceptor を用いた場合でも、「鑑別疾患」や「診療計画」の個数は SNAPPS と同様に引き出した。SNAPPS と One-minute preceptor はどちらを指導に用いても、同様の診療精度を保てることが考えられる。研修医のような学習者が、「疑問点不明点」を表現することに慣れていないか、「学習課題」を自ら設定することに慣れていないか、によって SNAPPS と One-minute preceptor を使い分けることは必要かもしれない。

自己評価に関する考察

SNAPPS を用いた群は One-minute preceptor を用いた群に比して概ね同様の評価、あるいはより肯定的な自己評価だった。しかし図 2 をみると、「診療計画をたてやすかった」については、One-minute preceptor 群の方が肯定的な評価が多く、そして否定的な評価が少なかった。One-minute preceptor は短時間で効率よく指導医が学習者に介入することを目指した指導法であるため、学習者はやりやすさを感じたのかもしれない。SNAPPS は、学習者を中心とした構造であるため、学習者である研修医の自己評価も高い結果であったと思われる。また、「学習課題を挙げやすかった」の項目は SNAPPS で肯定的な評価が多かった。前述の「学習課題」の個数に差はなかったが自己評価には違いが見られた。SNAPPS により自己学習の動機付けが促された可能性が考えられる。

まとめ

本研究で、症例提示に用いる指導法として SNAPPS 法と One-minute preceptor 法では、研修医が考え発言した「鑑別診断」の個数には差がなく、どちらでも促せていた。SNAPPS は「疑問点不明点」を促す構造を有しており、症例提示においてもより多くの「疑問点不明

点」を促した。症例提示の結果、2つの指導法の間で「学習課題」の個数に差はなかったが、SNAPPSでは「学習課題を挙げやすかった」に関して評価が高く、学習をより促せる可能性が考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 3件)

初期臨床研修医を対象とした症例提示の指導におけるSNAPPSとsix micro skillsの比較

関 正康, 大滝 純司, 赤石 雄, 小林 志津子, 菰田 孝行, ブルーヘルマンズ・ラウル, 平本 淳, 原田 芳巳, 平山 陽示, 泉美貴

第45回 日本医学教育学会大会

2013年7月26日

千葉市

初期臨床研修医への症例提示指導に用いるSNAPPSとsix micro skillsの比較検討

関 正康, 赤石 雄, 菰田 孝行, 小林 志津子, 原田 芳巳, R.・ブルーヘルマンズ, 平山 陽示, 泉 美貴, 大滝 純司

第170回 東京医科大学医学会総会

2012年11月17日

新宿区

外来指導に用いる

SNAPPSと6 micro-skillsの比較

関 正康, 赤石 雄, 菰田 孝行, 小林 志津子, 原田 芳巳, 平山 陽示, 泉 美貴, 大滝 純司

第44回 日本医学教育学会大会

2012年7月27日

横浜市

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

関 正康 (SEKI, Masayasu)

東京医科大学・医学部・兼任助教

研究者番号: 00532227

(2)研究分担者

(3)連携研究者

()

研究者番号: